

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	一般国道235号（日高自動車道） 静内三石道路（静内～東静内）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道日高郡新ひだか町 静内神森 至：北海道日高郡新ひだか町 東静内	延長	8.0 km		

事業概要
日高自動車道は、苫小牧市を起点として厚真町、むかわ町、日高町等を経由し、浦河町へ至る高規格道路である。このうち、静内三石道路（静内～東静内）は、日高郡新ひだか町 静内神森から日高郡新ひだか町 東静内に至る延長約8.0 kmの自動車専用道路である。

事業の目的、必要性
当該区間の整備により、大規模な地震・津波の発生に備えた信頼性の高い道路ネットワーク確保による住民の安心・安全と国土強靱化の実現、市街地の回避による速度低下や信号交差点による走行中の揺れの回避による全国一の生産を誇る軽種馬産業の支援、高次医療施設へのアクセス向上による救急医療活動の支援が期待される。

全体事業費	約520億円	計画交通量	約7,700台/日
-------	--------	-------	-----------



関係する地方公共団体等の意見
【北海道知事】
一般国道235号（日高自動車道）静内三石道路（静内～東静内）の予算化に同意いたします。
本道における高規格道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や広域観光の振興、地域経済の活性化への貢献のほか、大規模災害における代替路の確保など、道民生活や経済活動を支援する重要な役割を果たすものです。
「一般国道235号（日高自動車道）静内三石道路（静内～東静内）」の整備は、全国一の生産を誇る軽種馬や農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、救急搬送時間の短縮、大規模地震・津波発生時の避難及び緊急車両の通行確保、日高・十勝を巡る周遊観光等の振興など多くの効果を発揮するものと考えています。
令和4年度の新規事業として予算化していただきますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
・費用対便益：便益が費用を上回っている。
・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（R3.12.7）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.3 (1.01)	総費用：4,083億円 （事業費：3,724億円 維持管理費：333億円 更新費：26億円）	総便益：5,299億円 （走行時間短縮便益：4,522億円 走行経費減少便益：639億円 交通事故減少便益：139億円）	基準年 令和3年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.5（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.3（事業費 +10%）	B/C=1.3（事業費 -10%）	
		事業期間変動	B/C=1.3（事業期間 +20%）	B/C=1.3（事業期間 -20%）	

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎
事故対策		◎	事故危険区間や線形不良区間の回避により、安全性が向上する。 【線形不良箇所】 現況 2箇所 → 整備後 0箇所 [全て回避] 【事故危険区間】 現況 1箇所 → 整備後 0箇所 [全て回避]
歩行空間		—	注目すべき影響はない。
社会全体への影響	住民生活	◎	高次医療施設を有する苫小牧市への速達性及び安定性向上により、安心できる暮らしを支援する。 【所要時間（苫小牧市立病院～新ひだか町（東静内地区））】 現況 72分 → 整備後 59分 [13分短縮] 【60分圏カバー人口（新ひだか町）】 現況 0% → 整備後 61%
	地域経済	◎	函館港へのアクセス向上により、軽種馬輸送の速達性や安全性が向上し、地域の基幹産業である軽種馬産業を支援する。 【所要時間（新ひだか町～函館港）】 現況 271分 → 整備後 255分 [16分短縮]
	災害	◎	津波浸水範囲を回避し、大規模災害発生時に信頼性の高い道路ネットワークを確保する。 【津波浸水区間の回避】 現況 7.8km → 整備後 0.0km [全て回避] 【代替路の確保】 現況 未確保 → 整備後 確保
	環境	—	注目すべき影響はない。
	地域社会	◎	速度向上や事故率低減など、交通環境の改善・輸送効率向上により地域の産業振興に貢献する。
事業実施環境		○	日高総合開発期成会、日高自動車道早期建設促進期成会等より静内～三石間の早期事業化を要望されている。

採択の理由

費用便益比が一体評価で1.3と便益が費用を上回っているとともに、計画段階評価手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、当該区間の整備により救急医療活動、物流輸送、災害時における道路機能の確保等の効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※B/Cの上段は厚真IC～三石IC（仮称）を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
大規模な地震・津波などの災害時においても機能する信頼性の高いネットワークを構築し、輸送時の物流効率化を支援するとともに、高次医療機関への救急搬送時における速達性・安定性向上による、地域の安心できる暮らしを支援するものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	日高地域は、今後30年以内の大規模地震の発生確率が高く、大規模地震の発生により、国道235号（静内～東静内）の約85%が津波により浸水すると想定。津波浸水予測範囲に位置する国道235号が寸断した場合、自衛隊による救援・救助、復旧活動等の遅延が懸念。	※北海道総合開発計画(H28.3閣議決定) ・地震・津波による被害や社会経済的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格幹線道路の整備を促進する。 ※道央広域連携地域政策展開方針(R3) ・防災・減災、国土強靱化に資するインフラの整備や、地域防災マスターや自主防災組織の育成、感染症対策を踏まえた避難所運営などによる地域防災力の強化
住民生活	日高地域には心筋梗塞や脳卒中の急性期医療を担う医療機関がなく、苫小牧市や札幌市の高次医療施設に依存。新ひだか町から苫小牧市への救急搬送は、心筋梗塞の救命効果が期待できる60分での到達が困難。安心して暮らせる地域を形成するには苫小牧市や札幌市への速達性が課題。	※北海道総合開発計画(H28.3閣議決定) ・基礎圏域中心都市と周辺市街地とのアクセス向上を図り、基礎圏域内外の広域的な交流を支えるため、都市間の時間距離を縮める高規格幹線道路網等の広域交通ネットワークの整備を推進する。 ※道央広域連携地域政策展開方針(R3) ・地域生活や産業及び快適な広域観光を支える交通ネットワークの維持・確保及び充実
地域経済 地域社会	日高地域は、全国生産頭数の約8割を占める全国一の軽種馬産地であるが、信号交差点や線形隘路区間で発生する走行中の揺れに起因する輸送熱※を発症しているほか、貨物車の重大事故発生割合が全道平均の約1.8倍と高く、安定かつ安全性の高い輸送路の確保が課題。 ※輸送熱とは、走行中の揺れやストップ&ゴーに起因する馬の呼吸器疾患。	※北海道総合開発計画(H28.3閣議決定) ・広域的な人流・物流を支える交通体系を強化する観点から、生産地や観光地、消費地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備を推進する。 ※道央広域連携地域政策展開方針(R3) ・地域生活や産業及び快適な広域観光を支える交通ネットワークの維持・確保及び充実
その他		

事業の有効性									
<ul style="list-style-type: none"> 当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価に変化はないものの、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。 また、安全で信頼性の高い道路ネットワークが確保されるとともに、拠点都市と重要港湾間のアクセス向上が図られ地域産業の活性化、地域医療サービスの向上に貢献するなど有効性の高い事業と評価する。 									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	浦河町	新ひだか町	21 (8)	0.95 [C] (1.00) [D]	0.95 [C] (1.00) [D]	▲334.39 (▲77.29)	0.09 (0.06)	0.00 (0.00)	○

事業の効率性
・計画段階評価手続き完了（R3.12.7）

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は厚真IC～浦河を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。